

楽しく美しい まちづくり通信…(75)

歴史の 散策

パート (1)

古い歴史をもつ二戸市。

普段何気なく使う地名などは、由来があり、趣があります。

師走に入ってから、趣があります。日の午後、石切所の川原橋から岩谷橋に向かって街を歩いてみました。

【船場】旧浄法寺街道は、ここから船渡して石切所(長福寺下)へ通じていました。

天保初年ころ土橋が架けられ、石切所橋と呼ばれていたそうで、明治十八年、国道改修で川原橋が完成するまでありました。

【杉ノ沢】昭和八年に県是製糸(後の片倉製糸)福岡工場が建てられるまではウッソウとした杉林で、廻道庵付近からの沢が流れていたのが杉ノ沢と呼ばれていました。

【廻道庵跡】※現在の三英東光(株)の西側

九戸城落城後、家臣佐藤外記

が庵室を結び、政実をはじめ戦死者の菩提を弔っていました。二人の尼(蒲生氏綱の母と熊谷藤前の妻)が廻道して来て菩提を供養したという言い伝えがあります。(九戸軍談記)

【元八幡】古くから九戸城の鎮守として八幡宮が祀られていて、付近一帯を八幡平と呼んでいました。

したが、後に荒廃し、享保元年に城の外に遷されました。今は、雷火に焼けた銀杏の木だけが残っています。

【橋場】九戸城の外堀に小橋が架かり、橋を渡ると木戸がありました。

木戸を抜けると五日町(延宝以前は三日町)に入ります。

【呑香稲荷】九戸の戦乱を避けて一時津軽に移っていましたが、慶長年中、漆沢(浄法寺町)に遷座、天和二年、現在の地に遷宮しました。

参道は初め坂道でしたが、宝暦八年、藩公より敷石・石段が奉納されました。

【田中館愛橋寓居】明治八年、田中館稲蔵帰郷の折、親戚によ

り建築、居住いたしました。その後改築され、昭和二十年まで仮寓してました。

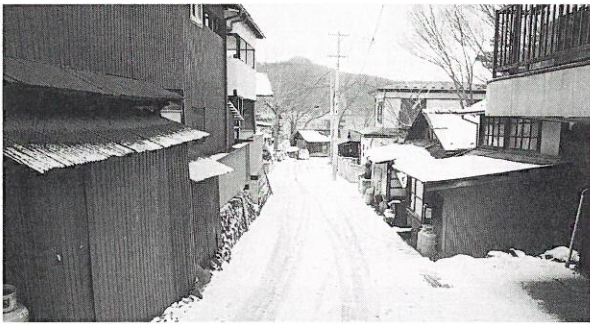
【安養寺】石切所にあつて慈眼寺といつていましたが、九戸城落城後、現在の地に移されたといひます。

【マスケ坂】一里塚の根元に馬助という評判の男(明治以後塚根姓・明治二十五年、七十二歳で没)が住んでいたたので、俗に

【三界万霊塔】正徳二年、久慈氏の後胤撰待宗碩が願主となつて、八戸大慈寺の奇峯学秀の刻んだ千本仏をおさめて、九戸戦の戦没者を供養する千仏堂が龍岩寺に建てられました。天保六年の洪水で流されました。由緒を刻んだ万霊塔だけが、この地に移されました。

今回掲載できなかった村松・穴牛地区についても「寺屋敷」、「御明堂」、「神明宮跡」など歴史を辿る由緒あるものが沢山あります。

ぜひ、一度足をお運びください。



現在のマスケ坂のようす

(ウ) マスケ坂と呼ばれていま

【一里塚】旧奥州街道。浪打峠の南側の一里塚から一里の場所

で、明治初年まで両側に塚があつたといわれています。

【サバネ坂】慶長年中、この坂の上に佐羽内某(右京・明暦三年没)の屋敷があつたので、サ

バネ坂と呼ばれています。

【旧岩谷橋】明治二年、現在の岩谷橋が架かる前は、この橋が

岩谷橋でした。この下手に架かる二戸大橋の下(現在は、川の

中)に石垣で土留して龍岩寺が建つていましたが、天保六年の

洪水で流出し、翌年現在の地に移されました。

【三界万霊塔】正徳二年、久慈氏の後胤撰待宗碩が願主となつ

て、八戸大慈寺の奇峯学秀の刻んだ千本仏をおさめて、九戸戦

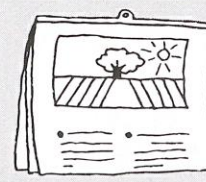
の戦没者を供養する千仏堂が龍岩寺に建てられました。天保

六年の洪水で流されました。由緒を刻んだ万霊塔だけが、この

地に移されました。

今回掲載できなかった村松・穴牛地区についても「寺屋敷」

こよみ



1月11日～2月10日

★1月★

- 11日(火) 3歳児健診(保健センター)、離乳食セミナー・初期(保健センター)、鏡開き
- 12日(水) 市民生活相談(第3相談室)
- 13日(木)
- 14日(金)
- 15日(土) 小正月
- 16日(日)
- 17日(月) 防災とボランティアの日
- 18日(火) 4か月健診(保健センター)、離乳食セミナー・中期(保健センター)、土用
- 19日(水)
- 20日(木) 法律相談(第3相談室)
- 21日(金) 税務巡回相談(第3相談室、大寒(二四節気)
- 22日(土)
- 23日(日)
- 24日(月)
- 25日(火) 1歳6か月健診(保健センター)、離乳食セミナー・後期(保健センター)、親子プログラミング教室(保健センター)
- 26日(水) 文化財防火デー
- 27日(木)
- 28日(金)